

令和5年度 熊本市救急災害医療協議会

1 救急医療について

(1) 令和4年度救急診療実績

- ① 初期救急休日・夜間診療実績 (1)
- ② 初期救急休日・夜間診療実績（年未年始） (2)
- ③ 令和4年度救急患者数
（公的7病院及び休日当番の救急患者数） (3)
- ④ 過去10年の救急患者数の推移（患者自ら来院） (4)
- ⑤ 過去10年の救急患者数の推移（救急車で来院） (5)
- ⑥ 救急出場件数の状況 (6)
- ⑦ 救急搬送件数（医療機関別） (7)
- ⑧ 令和4年度救命救急センターにおける救急患者の状況 … (8)
- ⑨ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ運航
状況について（参考） (9)
- ⑩ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ未出動
件数について（参考） (10)

(2) 令和5年度救急医療体制

- ① 令和5年度救急医療体制 (11)
- ② 夜間の医療体制および相談体制の状況 (13)

2 災害医療について

- (1) 熊本市の災害医療体制について (15)
- (2) 熊本市地域災害コーディネーターについて (17)
- (3) 熊本市災害医療サポートチームについて (17)
- (4) 広域災害救急医療システム（EMIS）について (18)
- (5) 熊本市災害医療訓練の実施について (19)
- (6) 災害医療にかかる市民への啓発について (20)

1 救急医療について

(1) 令和4年度 救急診療実績

① 初期救急休日・夜間診療実績 (熊本市委託分)

		30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	対前年比	
患者総数		72,021	75,965	35,314	41,004	49,964	121.9%	
休日夜間急患センター (熊本地域医療センター)	患者総数	27,302	26,081	9,458	11,217	13,129	117.0%	
	小児科	14,735	14,279	5,102	6,811	8,117	119.2%	
	内科	10,629	9,734	3,329	3,264	3,549	108.7%	
	外科	1,938	2,068	1,027	1,142	1,463	128.1%	
	診療日数	360	361	334	360	362	100.6%	
	1日平均	76	72	28	31	36	116.4%	
	市外患者数(再掲)	3,731	3,257	916	1,430	2,721	190.3%	
	県外	618	502	82	179	408	227.9%	
	二次病院転送件数	1,330	1,220	756	759	747	98.4%	
休日準夜間診療所 (熊本赤十字病院)	患者総数	4,788	4,681	2,385	2,803	3,233	115.3%	
	小児科	2,347	2,363	1,011	1,328	1,705	128.4%	
	内科	1,808	1,742	946	989	1,020	103.1%	
	外科	77	54	48	45	48	106.7%	
	整形外科	556	522	380	441	460	104.3%	
	診療日数	67	71	66	66	66	100.0%	
	1日平均	71	66	36	42	49	115.3%	
	市外患者数(再掲)	2,024	1,994	956	1,123	1,363	121.4%	
	県外	112	122	20	44	79	179.5%	
二次病院転送件数	107	85	69	38	50	131.6%		
休日当番医	患者総数	39,816	45,060	23,390	26,882	33,487	124.6%	
	(熊本市医師会) 休日(9:00~17:00)	患者総数	35,432	39,716	21,483	25,476	31,818	124.9%
		延休日当番医数	769	823	746	748	739	98.8%
		1医療機関平均	46	48	29	34	43	126.4%
		二次病院転送件数	57	58	58	55	51	92.7%
	(鹿本医師会) ※1 休日(9:00~17:00)	患者総数	2,001	2,942	1,484	1,406	1,669	118.7%
		延休日当番医数	72	95	79	81	77	95.1%
		1医療機関平均	28	31	19	17	22	124.9%
	(下益城郡医師会) ※1 休日(9:00~17:00)	患者総数	2,383	2,402	423	0	0	—
		延休日当番医数	69	72	23	—	—	—
1医療機関平均		35	33	18	—	—	—	
休日歯科当番医 休日夜間(18:00~24:00)	患者総数	115	143	81	102	115	112.7%	
	延休日当番医数	67	71	66	66	66	100.0%	
夜間調剤(市薬剤師会) 毎夜間(18:00~24:00) 休日(0:00~24:00)	調剤処方箋枚数	17,441	16,707	6,258	6,811	7,567	111.1%	
	実施日数	360	361	334	360	360	100.0%	

※1 数値は年間総数(年未年始を含む)

なお、城南町・富合町の医療機関は、令和2年8月から熊本市域に統合。

② 初期救急休日・夜間診療実績（年未年始、熊本市委託分）

区 分	30年度	元年度	R2年度	R3年度			R4年度		
	合計	合計	合計	急患	休日	計	急患	休日	計
内科	3,646	3,574	1,160	305	883	1,188	413	1,930	2,343
小児科	2,487	2,466	1,074	289	896	1,185	382	1,062	1,444
外科	253	292	104	95	67	162	116	44	160
整形外科	335	410	322	-	455	455	-	471	471
脳外科	26	32	12	-	35	35	-	73	73
産婦人科	173	200	176	-	109	109	-	116	116
耳鼻咽喉科	1,319	1,140	436	-	536	536	-	840	840
眼科	361	394	281	-	295	295	-	248	248
その他	13	51	144	-	142	142	-	194	194
合計	8,613	8,559	3,709	689	3,418	4,107	911	4,978	5,889
歯科	428	350	293	310			290		
調剤処方箋	1,841	1,632	549	546			768		
電話相談	416	406	241	277			251		

【診療日毎内訳（令和4年度）】

区 分	12月30日		12月31日		1月1日		1月2日		1月3・4日	
	急患	休日	急患	休日	急患	休日	急患	休日	急患	休日
内科	81	840	90	194	84	142	85	225	73	529
小児科	90	139	82	234	74	231	71	261	65	197
外科	14	25	27	0	34	7	15	12	26	0
整形外科	0	281	0	54	0	13	0	121	0	2
脳外科	0	52	0	0	0	0	0	21	0	0
産婦人科	0	6	0	16	0	21	0	30	0	43
耳鼻咽喉科	0	161	0	136	0	223	0	197	0	123
眼科	0	66	0	66	0	24	0	30	0	62
その他	0	71	0	33	0	3	0	60	0	27
合計	185	1,641	199	733	192	664	171	957	164	983
歯科	82		64		51		48		45	
調剤処方箋	124		168		177		159		140	
電話相談	50		58		30		44		69	

○急 患： 休日夜間急患センター（熊本地域医療センター）

内科、小児科、外科

○休 日： 休日当番医

1日当り 内科系5、外科系3、産婦人科1、耳鼻咽喉科1、眼科1、泌尿器科1
小児科3（昼間のみ）

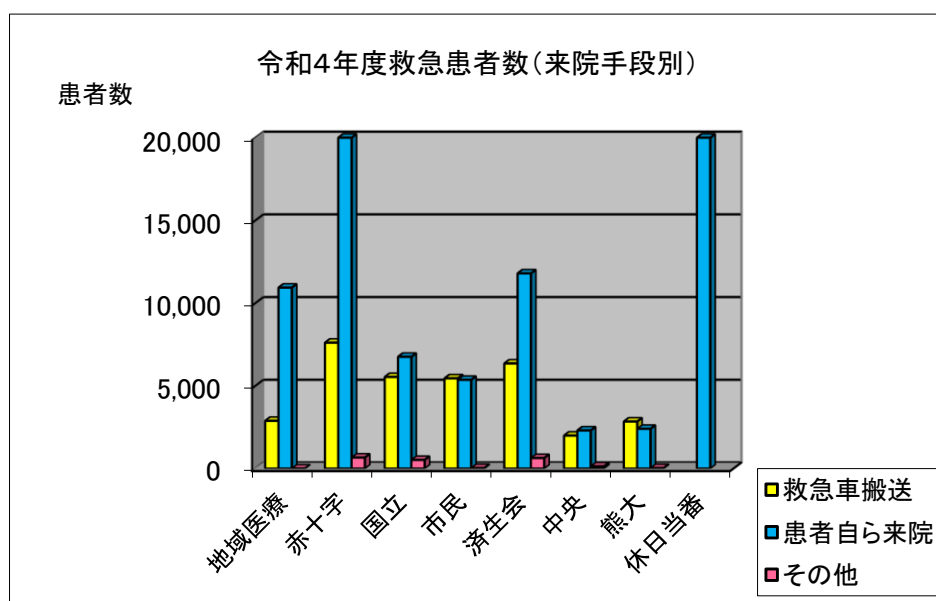
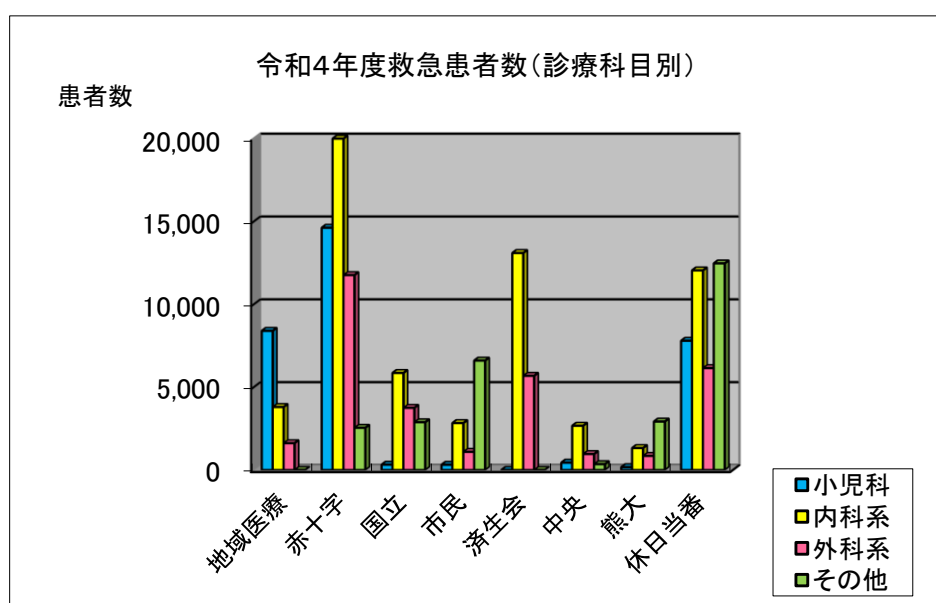
○歯科当番医 1日当り 歯科2

○救急調剤 市薬剤師会 くまもと中央薬局

○電話相談 地域医療情報センター（熊本地域医療センター内）

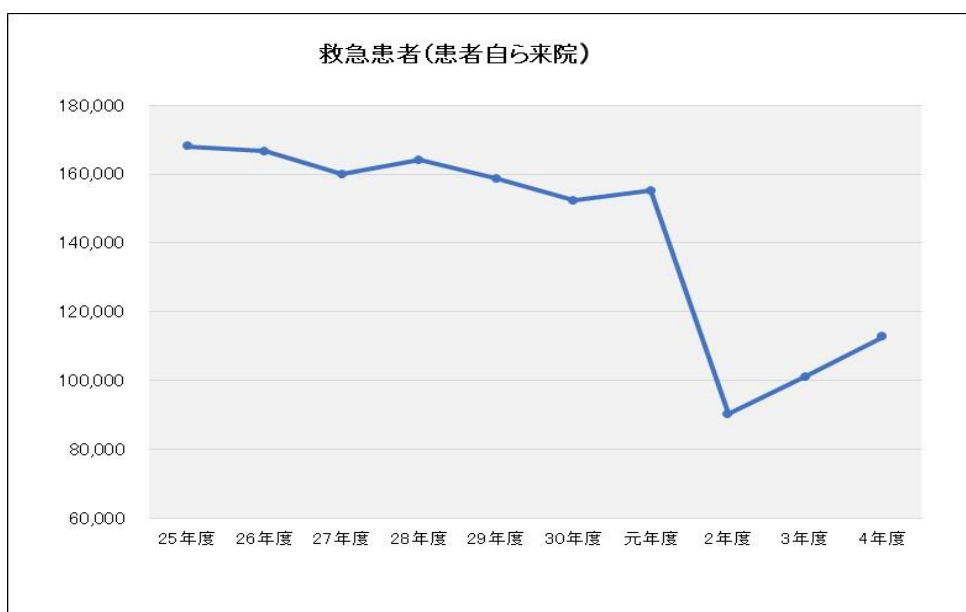
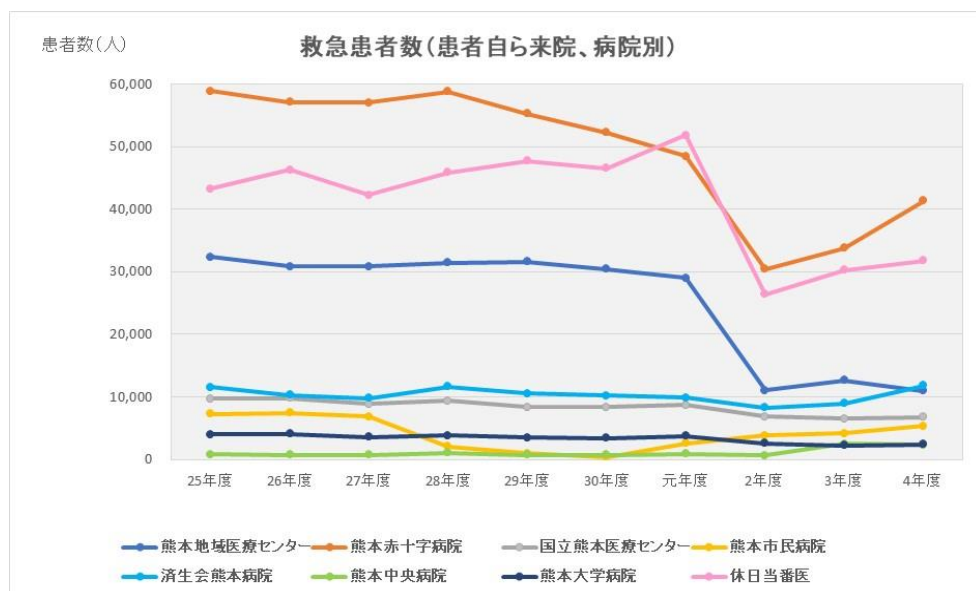
③ 令和4年度救急患者数（公的7病院及び休日当番の救急患者数）

	地域医療	赤十字	国立	市民	済生会	中央	熊大	休日当番	総数	総数	歯科
	熊本地域 医療センター	熊本赤十字 病院	国立熊本 医療センター	熊本市民 病院	済生会 熊本病院	熊本中央 病院	熊本大学 病院	休日当番	総数 (R4年度)	総数 (R3年度)	歯科
総患者数	13,816	49,607	12,807	10,842	18,780	4,425	5,268	38,465	154,010	134,220	405
小児科	8,398	14,620	320	315	0	442	172	7,800	32,067	27,009	
内科系	3,801	20,679	5,856	2,831	13,097	2,669	1,324	12,046	62,303	50,423	
外科系	1,617	11,763	3,749	1,094	5,683	962	850	6,149	31,867	33,280	
その他	0	2,545	2,882	6,602	0	352	2,922	12,470	27,773	23,508	405
救急車搬送	2,881	7,606	5,534	5,451	6,349	1,991	2,839		32,651	30,817	
患者自到来院	10,935	41,337	6,753	5,361	11,797	2,301	2,400	38,465	119,349	101,089	405
その他	0	664	520	30	634	133	29		2,010	2,314	



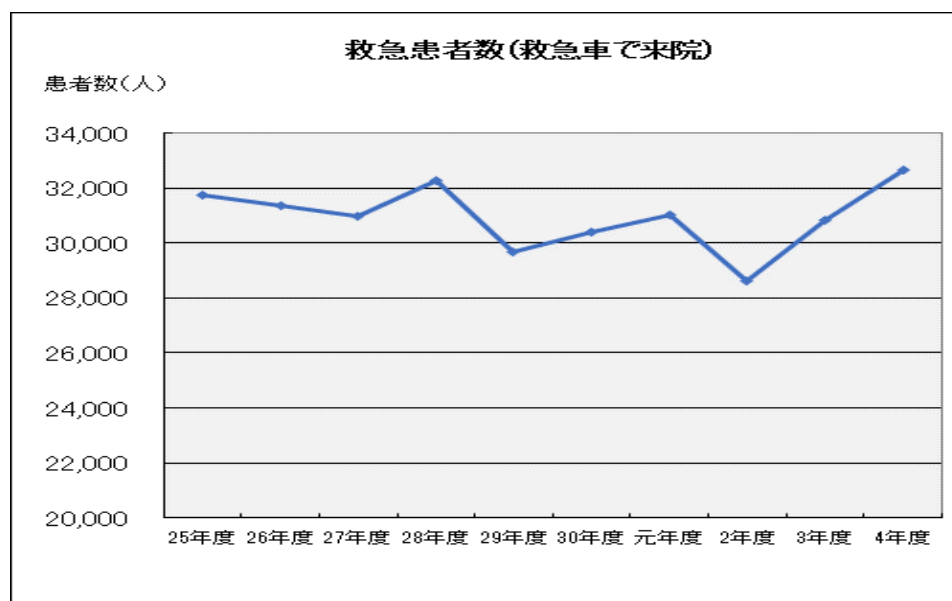
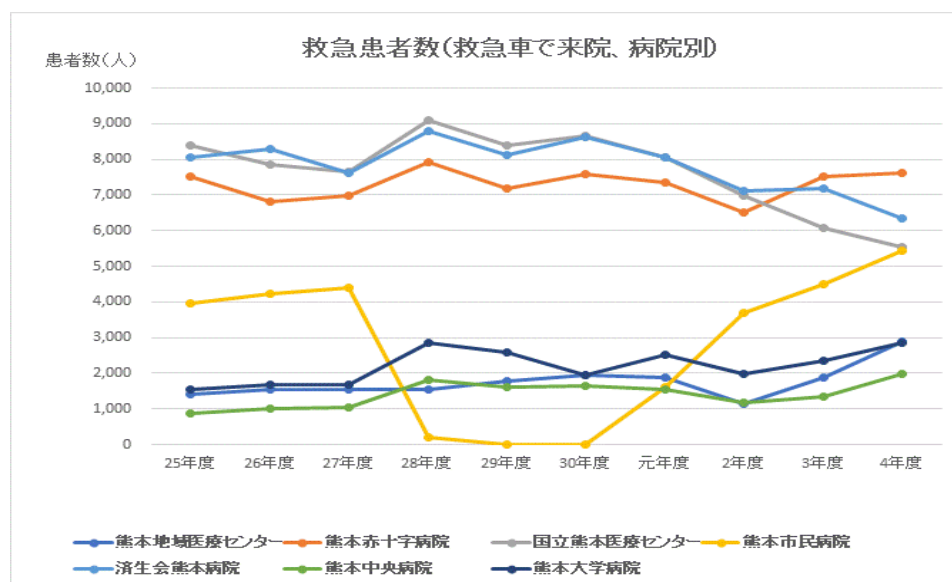
④ 過去10年の救急患者数の推移（患者自到来院）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
患者総数	168,023	166,662	160,036	164,114	158,733	152,356	155,156	90,273	101,089	119,349
熊本地域医療センター	32,344	30,866	30,906	31,471	31,615	30,466	28,990	11,091	12,617	10,935
熊本赤十字病院	58,927	57,174	57,058	58,803	55,292	52,307	48,521	30,452	33,794	41,337
国立熊本医療センター	9,748	9,780	8,835	9,393	8,379	8,344	8,690	6,876	6,551	6,753
熊本市市民病院	7,251	7,477	6,823	2,032	961	373	2,584	3,867	4,160	5,361
済生会熊本病院	11,564	10,300	9,793	11,604	10,543	10,238	9,851	8,299	8,942	11,797
熊本中央病院	840	705	758	1,073	695	685	886	674	2,456	2,301
熊本大学病院	4,033	4,084	3,617	3,874	3,539	3,401	3,756	2,566	2,269	2,400
休日当番医	43,316	46,276	42,246	45,864	47,709	46,542	51,878	26,448	30,300	38,465



⑤ 過去 10 年の救急患者数の推移（救急車で来院）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度
患者総数	31,739	31,384	30,968	32,276	29,666	30,380	31,014	28,616	30,817	32,651
熊本地域医療センター	1,405	1,537	1,551	1,560	1,772	1,930	1,890	1,152	1,887	2,881
熊本赤十字病院	7,529	6,823	6,992	7,924	7,173	7,571	7,340	6,505	7,504	7,606
国立熊本医療センター	8,381	7,853	7,666	9,110	8,387	8,653	8,067	6,975	6,064	5,534
熊本市民病院	3,945	4,212	4,391	208	14	6	1,600	3,695	4,495	5,451
済生会熊本病院	8,059	8,295	7,630	8,794	8,117	8,611	8,048	7,117	7,173	6,349
熊本中央病院	886	991	1,052	1,817	1,627	1,655	1,539	1,183	1,359	1,991
熊本大学病院	1,534	1,673	1,686	2,863	2,576	1,954	2,530	1,989	2,335	2,839



⑥ 救急出場件数の状況（市消防局のデータから）

令和4年の救急出場件数は43,694件であった。

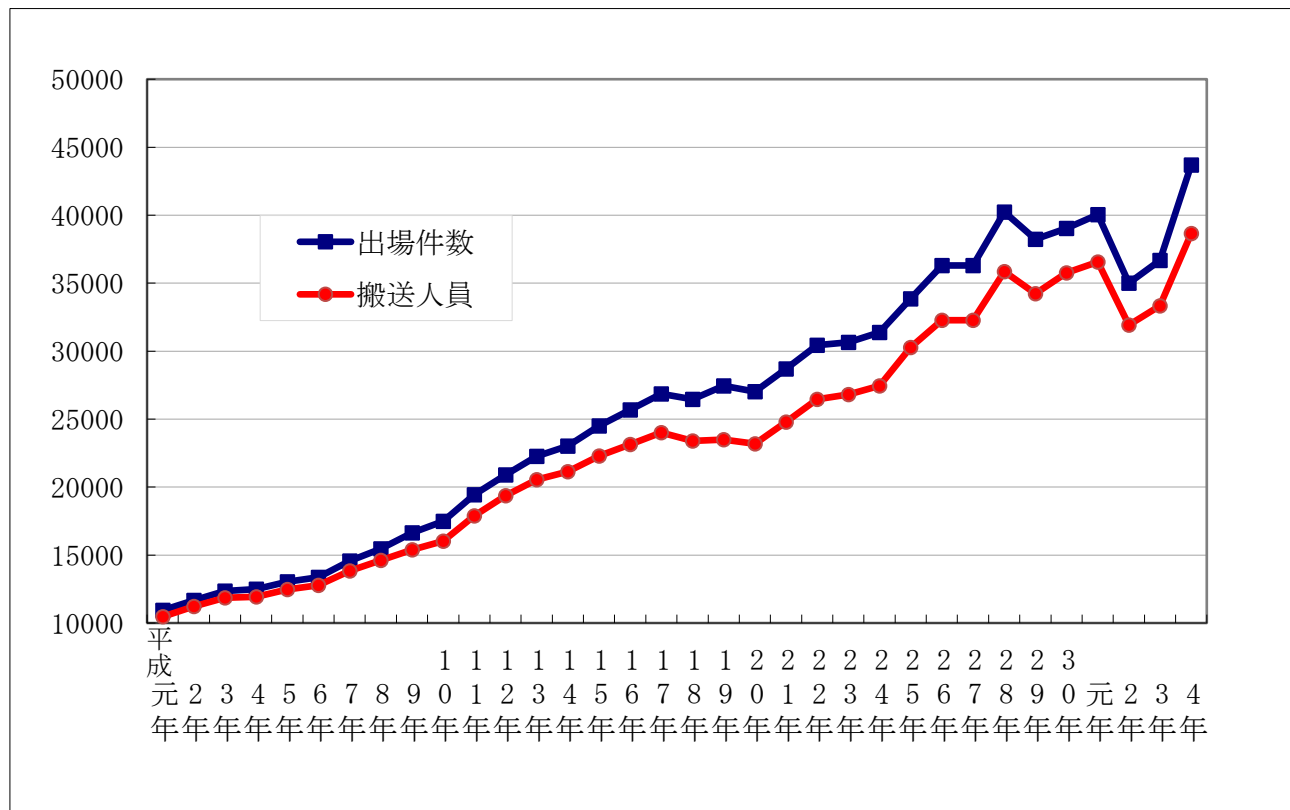
出場件数の頻度は、1日平均119.7件、約12分2秒に1回の出場となる。

搬送人員は38,655人で、管内住民の19.9人に1人が救急車で搬送されたことになる。

事故種別救急活動件数(過去5年の推移)

年別	件数 人員	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
30年	出場件数	39,034	150	2	5	2,951	329	363	6,272	139	316	24,911	3,596
	搬送人員	35,769	25	0	0	2,820	323	353	5,953	123	246	23,100	2,826
元年	出場件数	40,054	161	1	9	2,943	321	364	6,122	136	310	25,809	3,878
	搬送人員	36,566	29	1	4	2,792	317	361	5,775	116	236	23,866	3,069
2年	出場件数	35,016	110	7	15	2,311	294	243	5,844	136	354	22,164	3,538
	搬送人員	31,914	17	7	9	2,158	292	245	5,473	113	280	20,536	2,784
3年	出場件数	36,666	141	2	7	2,304	259	251	5,625	101	355	23,821	3,800
	搬送人員	33,341	32	1	5	2,174	256	246	5,280	81	276	21,913	3,077
4年	出場件数	43,694	143	4	7	2,413	315	279	6,689	145	390	29,212	4,097
	搬送人員	38,655	39	4	2	2,165	304	273	6,122	119	273	25,944	3,410

救急出動件数・搬送人員推移



⑦ 救急搬送件数(医療機関別) (市消防局のデータから)

医療機関別救急搬送件数

	救急告示 (公的)(※1)	救急告示 (民間)(※2)	その他の 医療機関(※3)	合計
平成30年	20,113	12,099	3,551	35,763
令和元年	20,806	12,274	3,484	36,564
令和2年	19,932	9,586	2,396	31,914
令和3年	19,543	10,926	2,870	33,339
令和4年	20,481	14,171	3,867	38,519

※搬送人員のうち、ドクターヘリ、防災ヘリへ搬送したものは集計に含めない

医療機関別救急搬送割合(%)

	救急告示 (公的)(※1)	救急告示 (民間)(※2)	その他の 医療機関(※3)
平成30年	56.2	33.9	9.9
令和元年	56.9	33.6	9.5
令和2年	62.5	30.0	7.5
令和3年	58.6	32.8	8.6
令和4年	53.2	36.8	10.0

※ 1 救急告示(公的):

熊本大学病院、熊本医療センター、熊本赤十字病院、
済生会熊本病院、熊本市市民病院、熊本市立植木病院 等 全19病院

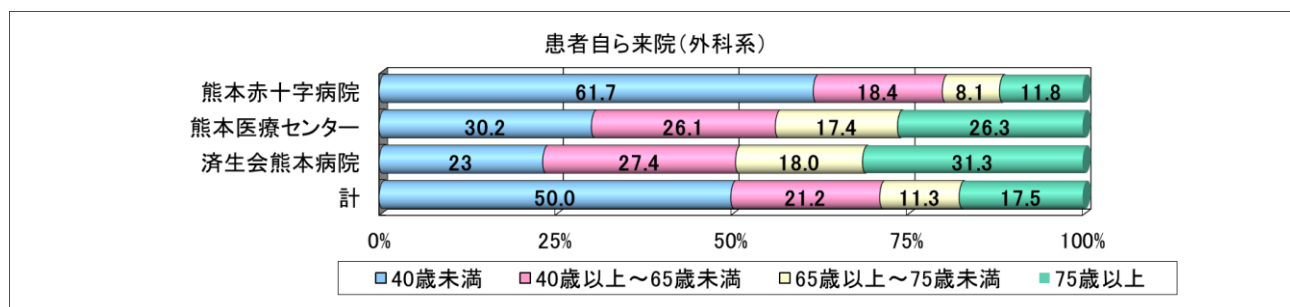
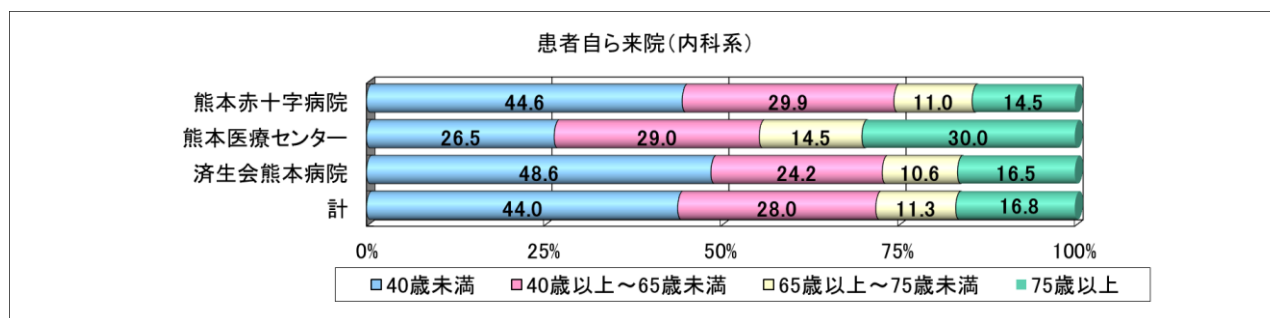
※ 2 救急告示(民間): 公的以外の救急告示医療機関

※ 3 その他の医療機関: 救急告示以外の搬送受入医療機関

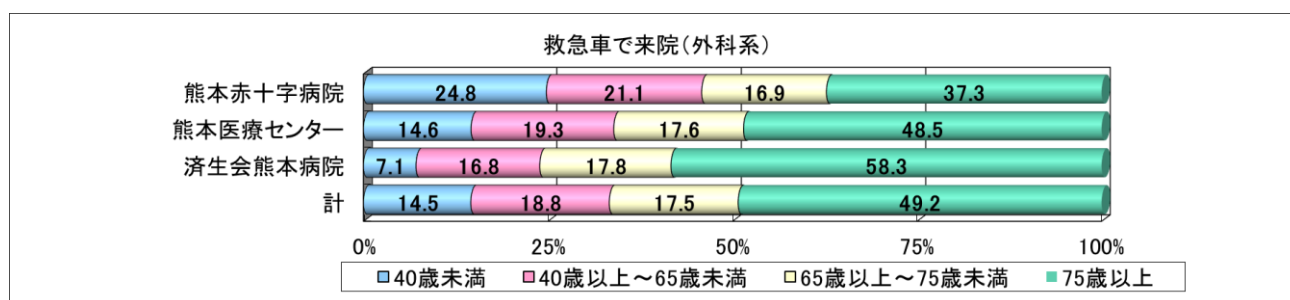
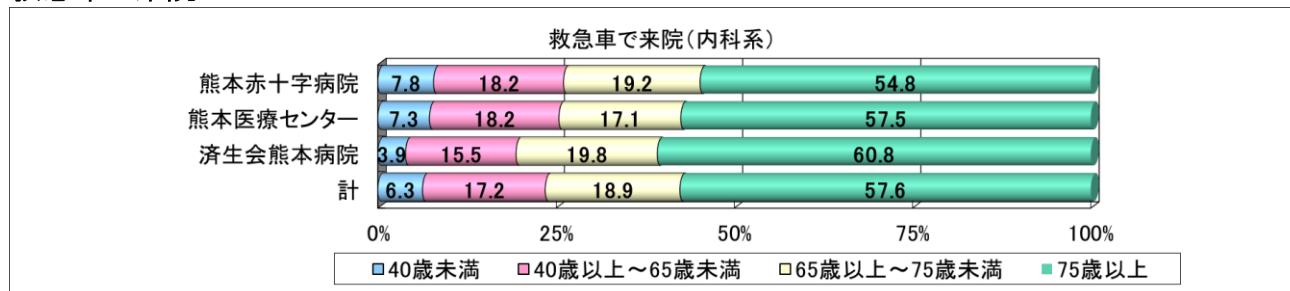
※ 4 救急告示の認定状況により、年によって該当医療機関数は変動します。

⑧ 令和4年度救命救急センターにおける救急患者の状況

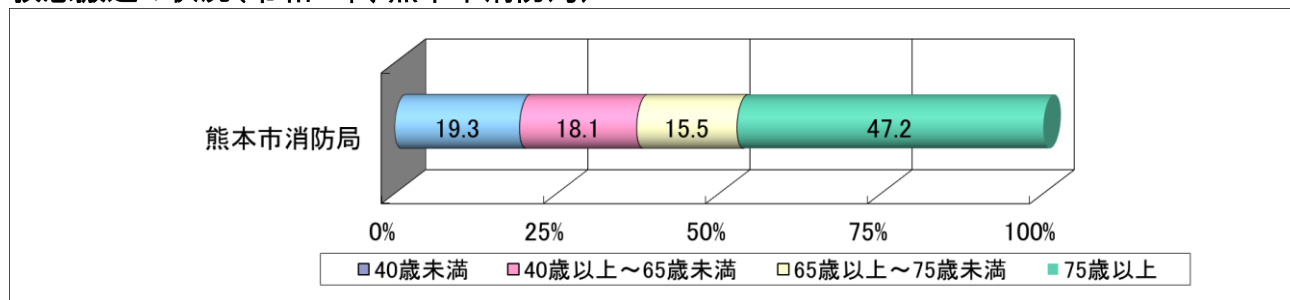
患者自到来院



救急車で来院



救急搬送の状況(令和4年、熊本市消防局)



※参考 (令和5年8月 熊本市住民基本台帳人口より)

40歳未満 39.8% 40歳以上～65歳未満 33.1% 65歳以上～75歳未満 12.8% 75歳以上 14.3%

⑨ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制によるヘリ運航状況について

1 運航集計期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

計365日間

2 運航（出動）件数及び内訳

【2機による運航状況】

ヘリ区分	件数 出動件数	出動件数内訳		
		現場救急	病院間搬送	出動後 キャンセル
ドクターヘリ	626	475	98	53
県防災消防ヘリ「ひばり」	91	37	54	0
計	717	512	152	53
(うち2機同時出動)	77	-	-	-

※その他、救助事案等として防災消防ヘリが41件出動

【消防別出動件数】

消防本部名	件数 出動件数	出動件数内訳		
		現場救急	病院間搬送	出動後 キャンセル
熊本市	19	9	10	0
宇城	33	29	2	2
有明	54	38	11	5
菊池	39	39	0	0
山鹿植木	87	79	7	1
阿蘇	205	158	30	17
上益城	76	70	5	1
八代	20	7	6	7
水俣芦北	20	6	13	1
上球磨	9	3	5	1
人吉下球磨	20	6	12	2
天草	135	68	51	16
その他	0	0	0	0
計	717	512	152	53

熊本県より資料提供

⑩ 「熊本型」ヘリ救急搬送体制におけるヘリ未出動件数について

年度	要請件数 (①)	未出動件数				出動前 キャンセル	未出動率 (②/①)
		時間外要請	天候不良	重複要請	合計 (②)		
H30	914	21	15	10	46	34	5.0%
R1	826	10	20	17	47	21	5.7%
R2	701	9	18	7	34	17	4.9%
R3	757	7	13	16	36	22	4.8%
R4	786	10	17	13	40	29	5.1%

《補 足》

○時間外要請＝運航時間（原則8：30～17：15）外における要請

○重複要請＝①ドクターヘリ出動時（防災消防ヘリ運休中）に入った要請

②防災消防ヘリ出動時（ドクターヘリ運休中）に入った要請

③ドクターヘリ及び防災消防ヘリとも出動中に入った要請

※未出動件数及び未出動率には、ドクターヘリ又は防災消防ヘリの一方が出動したため、もう一方が出動不要となった案件及び出動前にキャンセルとなった案件は含まれておりません。

熊本県より資料提供

(2) ① 令和5年度救急医療体制

		初期(一次)救急		二次救急			救急調剤	
平日	昼間	各医療機関の診療時間	病院 91 一般診療所 656 歯科診療所 407 (R5.4.1 現在)					
	夜間	午後6時～翌午前8時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科 午後6時～翌午前8時 内科・外科 午後6時～午後11時	午後6時～翌午前8時			午後6時～翌午前0時	熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
休日・祝日	昼間	午前8時～午後6時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科・内科・外科	午前8時～午後6時	【熊本中央圏域】 (熊本市、宇土市、宇城市、益城町、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町、西原村) 病院群輪番制度 熊本地域医療センター 熊本赤十字病院 済生会熊本病院 熊本医療センター 熊本市民病院 植木病院 (植木地区)	【熊本市】 救急告示医療機関 病院 41 診療所 2 (R5.4.1 現在)	午前0時～翌午前0時	熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
			休日当番医 内科・外科 7、小児科 1、整形外科 1、眼科 1、産婦人科 1、耳鼻咽喉科 1 (内科・外科 7のうち泌尿器科 1を含む) 植木地区 1～2					
	夜間	午後6時～翌午前8時	休日夜間急患センター(熊本地域医療センター) 小児科 午後6時～翌午前8時 内科・外科 午後6時～午後11時	午後6時～翌午前8時				
		午後6時～翌午前0時	休日準夜急患診療所(熊本赤十字病院) 小児科・内科・外科・整形外科 休日夜間歯科当番医 歯科 1					
毎日	夜間	午後7時～翌午前8時	熊本県夜間安心医療電話相談 1回線					

	初期(一次)救急	二次救急	救急調剤														
年 末 年 始	休日当番医（12月30日午前8時～1月4日午前8時） ○熊本市医師会 （24時間）内科系5、外科系3、産婦人科1 （9時～17時）小児科3、泌尿器科1 （時間未定）耳鼻咽喉科1、眼科1 ○鹿本医師会 例年どおり実施予定 （9時～17時）植木地区1～2	病院群輪番制度 【熊本中央圏域】 （熊本市、宇土市、宇城市、益城町、嘉島町、御船町、甲佐町、美里町、西原村） <table><tr><th>当番日</th><th>当番病院</th></tr><tr><td>12/30 午前0時～ 12/30 午前8時</td><td>国立病院機構 熊本医療センター</td></tr><tr><td>12/30 午前8時～ 12/31 午前8時</td><td>熊本地域医療センター</td></tr><tr><td>12/31 午前8時～ 1/1 午前8時</td><td>熊本赤十字病院</td></tr><tr><td>1/1 午前8時～ 1/2 午前8時</td><td>熊本地域医療センター</td></tr><tr><td>1/2 午前8時～ 1/3 午前8時</td><td>熊本赤十字病院</td></tr><tr><td>1/3 午前8時～ 1/4 午前8時</td><td>熊本地域医療センター</td></tr></table>	当番日	当番病院	12/30 午前0時～ 12/30 午前8時	国立病院機構 熊本医療センター	12/30 午前8時～ 12/31 午前8時	熊本地域医療センター	12/31 午前8時～ 1/1 午前8時	熊本赤十字病院	1/1 午前8時～ 1/2 午前8時	熊本地域医療センター	1/2 午前8時～ 1/3 午前8時	熊本赤十字病院	1/3 午前8時～ 1/4 午前8時	熊本地域医療センター	（24時間） 熊本市薬剤師会 くまもと中央薬局
	当番日	当番病院															
	12/30 午前0時～ 12/30 午前8時	国立病院機構 熊本医療センター															
	12/30 午前8時～ 12/31 午前8時	熊本地域医療センター															
12/31 午前8時～ 1/1 午前8時	熊本赤十字病院																
1/1 午前8時～ 1/2 午前8時	熊本地域医療センター																
1/2 午前8時～ 1/3 午前8時	熊本赤十字病院																
1/3 午前8時～ 1/4 午前8時	熊本地域医療センター																
休日夜間急患センター （12月30日 午前0時～1月4日 午前8時） ○熊本地域医療センター （24時間）小児科・内科・外科 （24時間）電話相談																	
休日歯科当番医 ○医師会 例年どおり実施予定 （24時間）2施設																	
熊本県夜間安心医療電話相談 （19時～翌8時） 1回線	救急告示医療機関 【熊本市】 病院 41 診療所 2（R5.4.1現在）																

※年末年始:12月30日午前0時～1月4日午前8時

② 夜間の医療体制および相談体制の状況

1 現在の休日夜間急患センターの診療体制

診療科目	平日・土曜日		日曜・祝日		
	準夜(18-23)※1	深夜(23-8)※2	昼間(8-18)	準夜(18-23)※1	深夜(23-8)※2
内科	○	—	○	○	—
外科	○	—	○	○	—
小児科	○	○	○	○	○

※1 小児科は(18-24) ※2 小児科は(24-8)

2 現在の夜間対応の状況について

(1) 夜間コールセンターへの相談状況

市民の夜間の体調不良に対する不安を解消するために「熊本県夜間安心医療電話相談（#7400）を令和3年6月から設置。午後7時から翌朝8時までの365日、市民からの急病等の相談に常駐の看護師がトリアージ対応を行い、受診の可否や応急処置の仕方、夜間に診療可能な病院を案内。

<夜間安心医療電話相談の実績>

	計	月平均	1日平均
全応答数	2,755	229.6	7.5
うち熊本市	1,791	149.3	4.9
うち市外	964	80.3	2.6
熊本市の割合	65.0%	65.0%	65.0%

<相談後の経過>

相談結果	件数	割合
すぐに受診案内	729	26.4%
救急車	305	11.0%
平日受診案内	374	13.5%
何かあれば受診	353	12.8%
助言・情報提供等	1,001	36.2%
計	2762	100.0%

(2) 熊本県子ども医療電話相談（#8000）への相談状況（熊本県より情報提供）

子どもの急な病気や外傷に対する保護者等の不安解消を図るために、休日・夜間における小児救急に関する相談を受付。経験のある看護師がお子さんの急な病気への対処方法や、応急処置について、休日や夜間に対応できる医療機関を案内。

<熊本県子ども医療電話相談の実績>

期間	総数	月平均	1日平均
令和3年度	17,008	1417.3	46.6
令和4年度	21,789	1815.4	59.7

<相談後の経過>

一括資料内での区分	合計	割合
助言・情報提供	11,976	38.4%
心配ないが、何かあれば受診	6,014	19.3%
昼間の受診案内	7,882	25.3%
すぐに受診を勧める	5,039	16.2%
その他	268	0.9%
合計	31,179	100.0%

(3) その他

休日夜間急患センターの内科・外科の深夜帯診療が電話相談等の体制に移行した影響やフォローの状況について調査を実施。

○休日夜間急患センターへの深夜帯の電話による問い合わせは、内科・外科合計で1日に2.7件、来院は1.4人。現時点で、対応（基本的に他院を案内）に苦情はない。

○深夜帯のウォークイン受入れ協力をいただいている民間救急告示病院（11医療機関）に受入れについての負担感調査を行い、1日あたりの受入数は0～4人（平均1.2人）で、概ね負担感はないとの回答を得ている。

3 現状における課題と今後の方針

<課題>

出動協力いただいている医師の高齢化や社会情勢の変化等により、休日夜間急患センターへの出動協力医の確保が難しくなっている。特に、来年度から実施される医師の働き方改革により、医師の確保はさらに厳しくなることが予想され、熊本市の初期救急医療体制の維持・確保について、関係機関で協議・検討が必要。

<今後の方針>

○休日夜間急患センターについては、夜間安心医療電話相談や急患センターへの問い合わせ等、市民の動向把握を行いながら、引き続き現在の診療体制等の維持を図る。

○特に小児科の診療体制について、現在は維持できているが将来的に現在の体制維持が困難になることも予想されるため、維持・確保の方法について関係機関と協議を行う。

○「夜間安心医療電話相談」「こども医療電話相談」の一層の周知を図り、市民の急病への受診相談に対応していくことで、医療機関への負担軽減につなげる。

○救急医療体制の維持・確保の観点から、市民に対し、かかりつけ医やかかりつけ薬局を持つことの意義、上手な医療のかかり方等、適正受診・適正服薬について継続的に啓発を行う。

<参考>令和5年8月18日19時 熊本市公式LINEにて配信

【「健康」を選択されているみなさんへ】
突然ですが、「上手な医療のかかり方」をご存じですか？

今回、みなさんに「上手な医療のかかり方」を知っていただきたく、新たにホームページを作成しました

「上手な医療のかかり方」を実践していただくことで、
・家計の負担軽減
・必要な人が必要な医療を受けられる体制維持
につながります

ご存じですか？
「上手な医療のかかり方」

かかりつけ医をもつメリットは？

休日に体調不良になったら
どうしたらいいだろう

そんなあなたに！
「上手な医療のかかり方」を学べるページを作りました

タップするとホームページに遷移します



↑熊本市 HP

「上手な医療のかかり方
(適正受診・適正服薬のすすめ)」

2 災害医療について

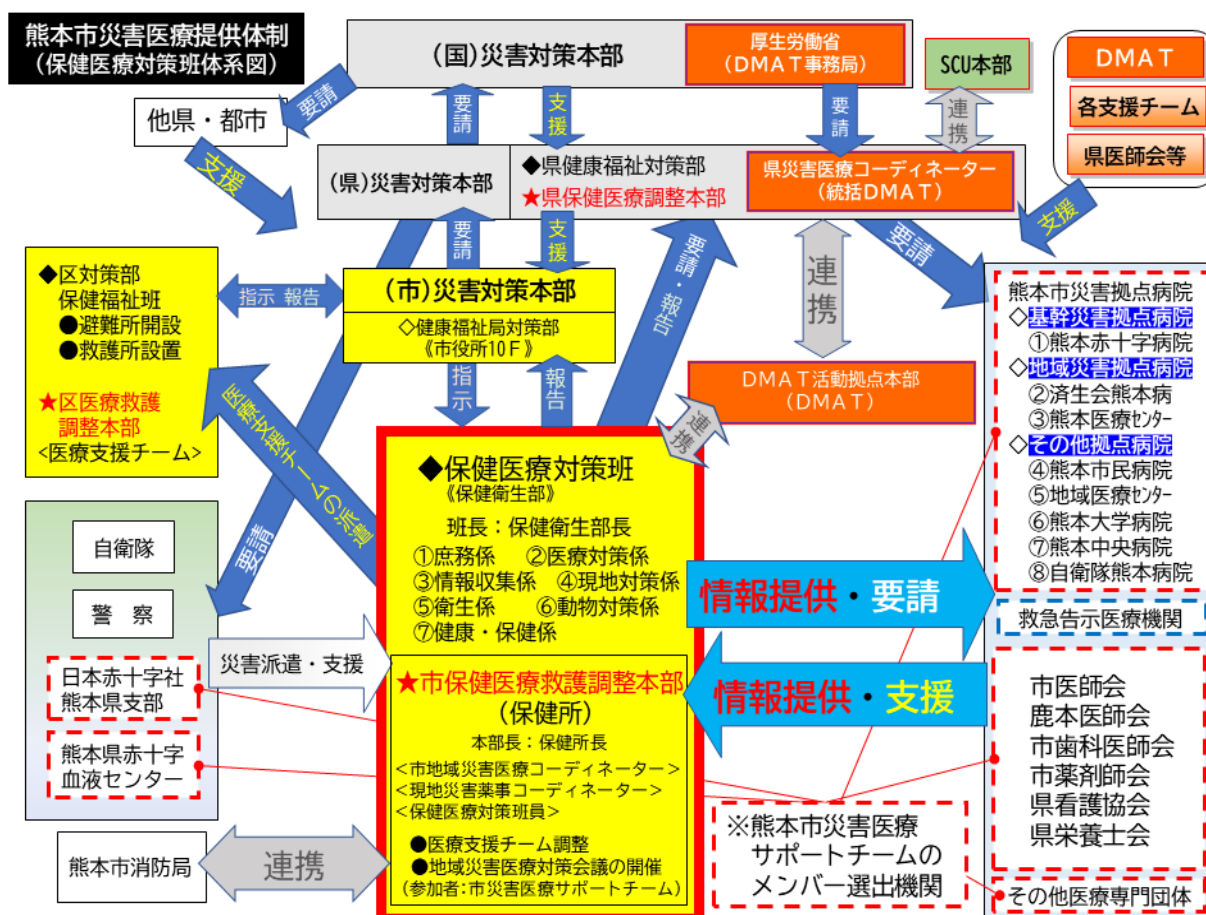
1. 熊本市の災害医療提供体制について

大規模災害の発生時には、医療施設の損壊や交通網・ライフラインの途絶、医療スタッフの不足等により医療提供能力が低下する中、多くの傷病者に、限られた医療資源で効率よく対応することが求められる。

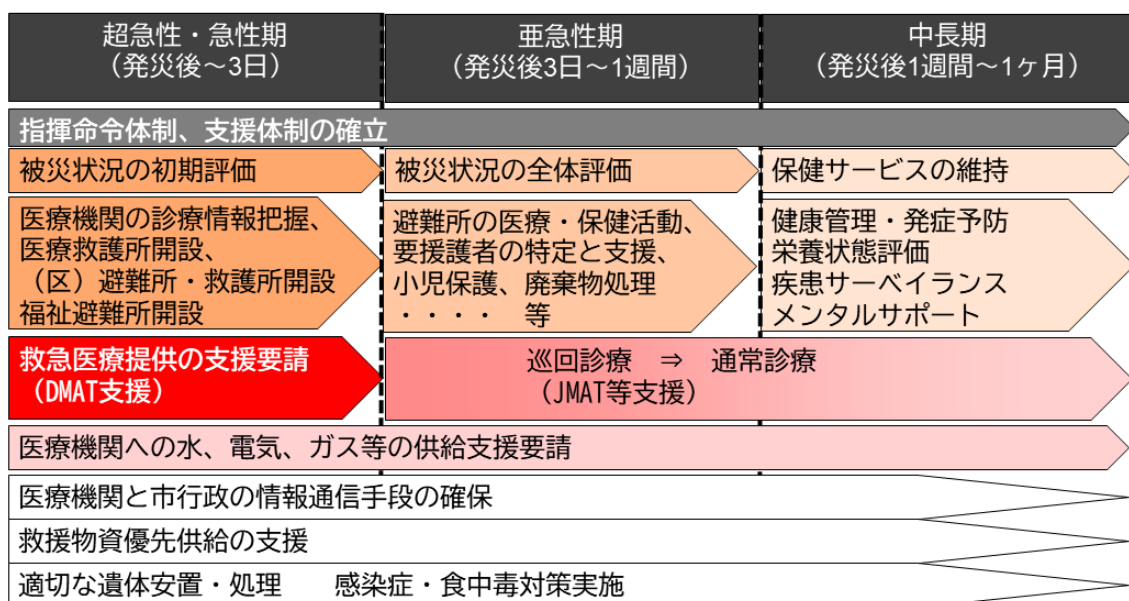
傷病者の受入は、免振・耐震設備を持つ災害拠点病院が中心となるが、被災現場や避難所、人的支援が必要な医療機関に対しては、県知事の要請にて直ちに全国から医療支援チームがかけつける体制となっている。

発災直後、県庁には県災害対策本部が設置され、医療調整本部の他、消防、警察、自衛隊等の本部もおかれ、DMAT・DPAT等の全医療支援チームの派遣調整や重症患者の県外搬送調整、ドクターヘリの運行調整、自衛隊や警察との連絡調整等が行われる。

熊本市災害医療提供体制 保健医療対策班体系図



<参考> 各フェーズの体制



(1)急性期フェーズ(概ね3日間)

熊本市域内の医療救護調整は、市保健所内に本部を設置後、医療機関の被災状況や患者の受入れ状況等について、広域災害救急医療情報システム(EMIS)等により情報収集を行い、医療ニーズと医療資源の供給調整(災害医療コーディネート)等を行う。

また、県がDMATの派遣要請や参集したチームの市町村別・地域別の割振りなどの全体調整(広域調整)を行うが、市保健医療対策班は、市の災害医療担当者及び熊本市地域災害医療コーディネーター(災害医療の専門医で本市では5人の医師を指定)を県庁に派遣し、市に割り振られたDMATの派遣活動調整等(急性期地域災害医療コーディネート)を行う。

さらに、医療資源を最大限に活用できるよう、救護活動では傷病者のトリアージを行い、重症患者の治療は災害拠点病院に集中させる。拠点病院以外の病院は、中等症患者の治療にあたり、軽症患者は病院ではなく、診療所や救護所で治療することとなる。

(2)中長期フェーズ

市保健所は、県を通じて派遣される医療支援チームを各区に派遣し、避難所や自宅で生活する市民の健康支援活動等を開始。市保健所と区に、医療救護調整本部を設置し、各避難所のアセスメントや健康管理、各支援チームの調整等を実施する。

JMAT等の医療支援チームは、区の保健師等と連携して被災市民や各避難所等のアセスメントを行い、避難者の健康管理・健康支援の他、避難所の感染症・食品・生活衛生対策等を実施する。

区と保健所の情報整理と業務調整のため、区と市保健所の連携会議や区・市保健医療調整本部長会議を適宜開催するとともに、医師会や拠点病院等の外部団体とも情報を共有し連携するため、市地域災害医療対策会議を開催する。

2. 熊本市地域災害医療コーディネーターについて(平成 30 年 3 月設置)

急性期の概ね3日間においては、県庁に熊本市地域災害医療コーディネーターと市の災害医療担当者が出動し、県災害医療コーディネーター等と連携しながら傷病者の受入医療機関の調整を行う。

中長期においては、各区の調整本部と連携して保健医療活動に係る情報収集・分析等を行い、県を通じて派遣された保健・医療活動チームに対し適切な派遣調整・指揮命令等を行う。

➤ 令和5年度「熊本市地域災害医療コーディネーター名簿

所属医療機関		氏名
1	熊本大学病院	田中 拓道 医師
2	熊本医療センター	山田 周 医師
3	熊本赤十字病院	平井 克樹 医師
4	済生会熊本病院	川野 雄一郎 医師
5	熊本市医師会	米満 弘一郎 医師

3. 熊本市災害医療サポートチームについて

熊本市では、災害発生時の緊急連絡用としてサポートチーム構成員間で連絡先を共有するために、「熊本市地域災害医療コーディネーター・サポートチームメンバー表」を作成し、毎年度更新を行っている。

また、情報連携を効率よく行うために、SNS(LINE)による情報網を整備した。

➤ サポートチーム構成員

熊本市救急災害医療協議会の「保健医療専門団体」、「公的医療機関」及び「日本赤十字社熊本県支部」並びに関係機関からの推薦によって選出。

原則、「保健医療専門団体」は各1名、「公的医療機関」は医師と事務担当者の各2名。

熊本市災害医療サポートチーム構成機関（18 機関）		
熊本市医師会	鹿本医師会	熊本市歯科医師会
熊本市薬剤師会	熊本県看護協会	熊本県栄養士会
熊本大学病院	済生会熊本病院	熊本赤十字病院
国立病院機構熊本医療センター	熊本中央病院	自衛隊熊本病院
熊本地域医療センター	熊本市民病院	熊本県赤十字血液センター
日本赤十字社熊本県支部	熊本県歯科衛生士会	熊本県柔道整復師会

➤ 主な役割・活動 [P15 熊本市災害医療提供体制 保健医療対策班体系図を参照]

- ① 熊本市保健医療対策班(保健医療救護調整本部)が行う災害医療コーディネート活動を支援するための各機関の連絡調整を担う。
- ② 平時および災害発生時に地域災害医療対策会議に参加し、情報共有・意見発信を行う。

4. 広域災害救急医療情報システム(EMIS)について

(1)災害時のEMIS利用について

災害発生時には、厚生労働省が運営する「広域災害・救急医療情報システム(EMIS)」を稼働し、各病院は、同システムに患者受入状況やライフラインの状況等を入力する。

EMISに入力された情報を確認した県・市・DMAT等は、各病院の状況を把握し、医療の調整を行うほか、それぞれが実施可能な支援を連携して行うこととなる。

現在、熊本市の 91 病院すべての登録が完了しており、有床診療所についても登録を進めている。

	令和5年度	令和4年度
日時	令和5年9月7日(木)、9月13日(水)	令和4年12月13日(火)～ 令和5年1月20日(金)
場所	会場(熊本市職業訓練センター)とオンライン (Microsoft Teams)によるハイブリッド開催	各機関における職場内研修
参加数	市内42医療機関等 68名	市内34医療機関等 119名
内容	①事前学習 e-ラーニングの受講、医療機関施設情報の入力 ②研修当日 EMIS の概要や操作方法を学ぶ[基礎編]と EMIS 入力内容の精度を高める[応用編]に分けて実施。 熊本市保健所から災害時の医療提供体制について説明後、災害拠点病院等の DMAT 隊員から EMIS の概要・使用方法等について説明。 受講者は EMIS の入力操作を実際に行った。	①e-ラーニングの受講 ②「個人練習モード」を活用した入力訓練 ①②についてマニュアルを作成し配布。 研修実施後に「実施報告書」の提出を依頼。



令和5年9月7日 EMIS 研修会の様子

5. 熊本市災害医療訓練の実施について

大規模災害発生時における迅速な医療提供体制の確保及び関係機関との連携体制強化を図ること等を目的として、熊本市救急災害医療協議会との共催により、年に一回、熊本市災害医療協訓練を実施している。

熊本市災害医療訓練内容(例)	
災害拠点病院	多数の傷病者が殺到する状況に対するトリアージ・応急処置などの患者受け入れ訓練等
その他の病院	EMIS 入力などによる情報伝達訓練
市保健所	各機関や各区と連携した体制で迅速な対応ができるよう保健医療救護活動にかかる災害対応図上訓練等

【令和5年度 熊本市災害医療訓練の実施について】

令和5年(2023 年)11月12日(日)に予定されている、熊本市震災対処訓練に合わせて、市内病院(任意)・関係機関を対象に実施予定。

訓練項目	連携先(当日)	訓練内容
① 参集・体制構築訓練		- 保健医療対策班立ち上げ - アクションカードに沿って各係の担当業務を行う
② 情報収集訓練	熊本市医師会 災害拠点病院	医療機関の被災状況・診療状況の確認(EMIS、電話、FAX)
③ 保健医療救護調整本部設置訓練	災害医療サポートチーム	- 熊本市地域災害医療コーディネーターへ出動依頼(LINE) - 県防災センターへ地域災害医療コーディネーターおよび市のコーディネート要員(医政課副課長)・リエゾン(ロジ)を派遣
④ 事例対応訓練(1)	市災対本部 熊本市市民病院 自衛隊	孤立避難所から要医療救護者を自衛隊ヘリにて熊本市市民病院へ搬送 市災害対策本部シナリオ
⑤ 事例対応訓練(2)	災害拠点病院 熊本県	災害拠点病院が EMIS へ緊急時入力し、市に割り当てられた DMAT 派遣までの流れの確認
⑥ 情報発信訓練	災害医療サポートチーム	熊本市災害医療対策会議の招集(LINE)
⑦ 市民啓発・広報訓練		軽症患者が災害拠点病院に集中しないよう市民への受診抑制の促しを行うとともに②で収集した情報をもとに受診可能な医療機関の広報を実施(ホームページ、LINE)

【熊本市災害医療訓練について】

訓練は、市の対処訓練のタイムテーブルと連動して行う予定であるため、全体の動きが確定してから調整を行う。参加機関には、詳細が決まり次第お知らせします。

6. 災害医療にかかる市民への啓発について

災害時の限られた医療資源の中で、治療が必要な方に必要な医療を提供できるよう、市民への啓発も必要です。「大規模災害時には多くの方の命を救うためトリアージが行われること」や「トリアージの内容について」など、熊本市のホームページや市政だより等を活用した市民への啓発を関係部署とも連携しながら検討していきます。



災害時の医療について

最終更新日：2023年8月25日 | 健康福祉局 保健衛生部 医療政策課 TEL：096-364-3186 FAX：096-371-5172 E: iryouseisaku@city.kumamoto.lg.jp

[担当課の地図を見る](#)

災害発生時は、医療の需要が供給をはるかに上回る状況で、少しでも多くの命を救う必要があります。熊本市では、災害発生時の医療提供体制の整備に取り組んでいます。



 緊急のお知らせ	災害医療とは・・・	熊本市の災害医療提供体制	少しでも多くの命を救うために
 医療機関の皆さまへ			

少しでも多くの命を救うために

「トリアージ」って？

大規模な災害や事故などで大量の負傷者が出た場合、多くの命を救えるようにするために「トリアージ」が行われることがあります。

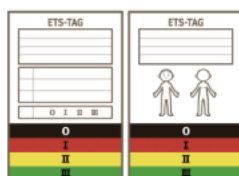
災害時など一度に多くのケガ人や病人が発生した際に、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために、傷病者の治療優先順位を決定することです。すべての人を救えることが最善ですが、限られた医療スタッフおよび医療機器数では、より多くの人を救うために優先順位を決めざるを得ないのが実情です。

トリアージは災害発生現場が病院で行われます。通常、実施する人は「医師」「看護師」「救急救命士」です。

傷病者を「軽症」「中等症」「重症」「死亡」の4つのカテゴリー統一された方法を用いて分類します。

トリアージを受けた傷病者は、トリアージタグ（緑、黄、赤、黒）というトリアージの結果が書かれた札を付けられます。

このトリアージタグにより、現場では誰が見ても優先順位を容易に確認でき、治療をはじめとする次の行動を明確にすることができます。



災害時トリアージではSTART法を用います。

Simple Triage and Rapid Treatmentの略で「単純なトリアージと迅速な治療」を意味します。

災害などで多くの傷病者がいる場面で、とにかく素早く行えるのが特徴です。重要なポイントは4つになります。

ほこと法（START法）

	状態	評価内容
ほ	歩行できるか	歩行ができていれば緑タグ
こ	呼吸しているか	気道開通の有無
と	橈骨（とうこつ）動脈は、触れるか	循環のサイン
て	手を握れるか（従命反応）	中枢神経障害の評価

この方法を用いれば、医療従事者でなくても、おおまかなトリアージが可能です。

